

# 兄島陸産貝類保全対策の最新情報



H28.3.4  
第5回小笠原諸島ネズミ対策検証委員会

# 1. 経過の概要

<2月以降緊急対応を実施してきたエリア>

優先して保全する希少種から重要保全エリアを選定



2月～ かごわなによるネズミ捕獲



8月下旬～ ベイトステーションの展開を開始



<重要保全エリアの位置付け>

実際には、**全域の保全**が必要であり、**重要保全エリアだけを守ればよい**という性質のものではない。全域の保全が困難な状況の中で、希少種の分布域等から、**やむを得ず優先順位をつけた**。

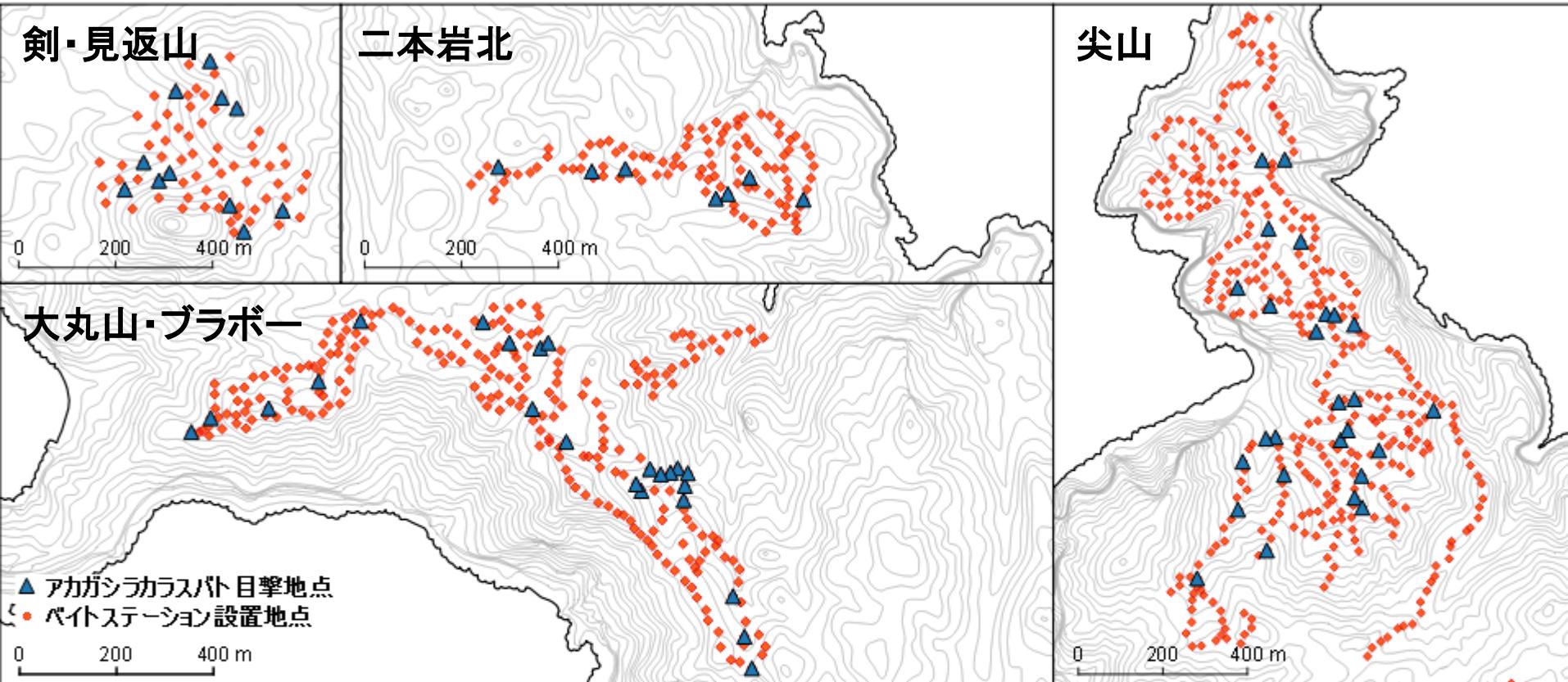
ヤマキサゴ類の多数の同胞種群の存在は無視している（これらを守るには全域の保全が必要なため）、重要保全エリア外を放置することによって、実際に**どれだけのヤマキサゴの種が絶滅するか**、現時点では分からぬ。

# 1. 経過の概要（12月以降）

第3回検証委員会で、ドバトにおいて  
高い殺鼠剤感受性が認められた

	2015年		2016年		
	12月		1月	2月	3月
アカガシラカラスバト喫食への対応		ハトの殺鼠剤 喫食の確認	ハト喫食回避策 の試験		
BS（ベイトステーション）の稼働・点検状況	スローパック		一部を残して BSを停止		ハト喫食回避策 による再開
点検作業	巡回6回目		一部巡回	粒剤充填	粒剤補充
ネズミの生息状況モニタリング	カゴわなによる捕獲		カゴわなによる捕獲	センサーダメラ	
陸産貝類の生息状況モニタリング			実施		

## 2. アカガシラカラスバトによる殺鼠剤喫食への対応

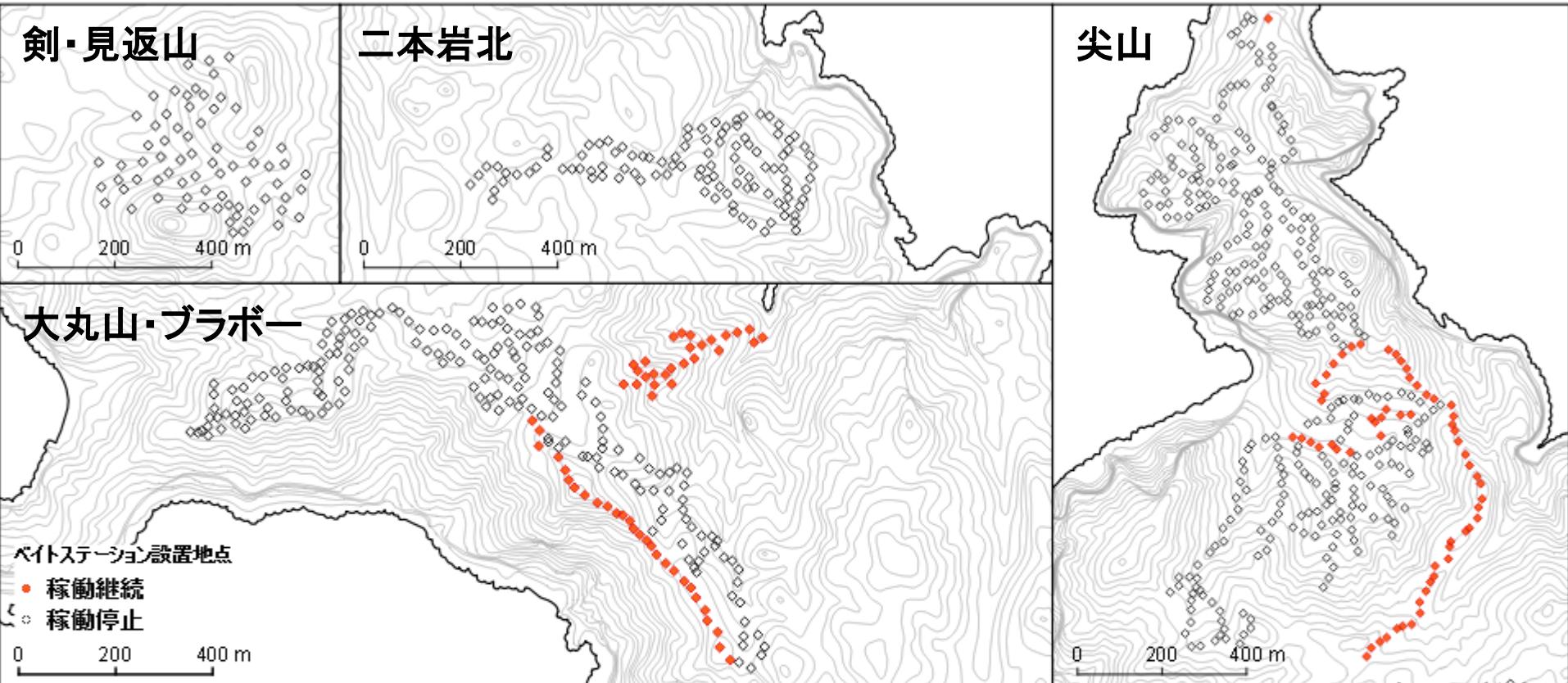


- 12月中旬より、ハトがベイトステーション周辺に逸出したスローパックから殺鼠剤を喫食する様子が確認される
- 同一のベイトステーションで繰り返し確認されたことから12月下旬より、カラスバトが確認された作業ルート周辺のベイトステーションの稼働を停止



写真提供：東京都

## 2. アカガシラカラスバトによる殺鼠剤喫食への対応



- 樹上または岩場に設置された一部のベイトステーションを除き、稼働停止  
 =点検時に殺鼠剤を回収

エリア	剣・見返山	二本岩北	大丸山	ブラボー	尖山	計
稼働停止期間	1月6日～ 2月8日	1月8日～ 2月17日	12月22日～ 2月9日	1月22日～ 2月12日	12月28日～ 2月5日	
期間中の稼働数 (設置数)	0 (71)	0 (105)	28～40 (219)	0 (26)	61～82 (382)	115 (803)

## 2. アカガシラカラスバトによる殺鼠剤喫食への対応

## 2. アカガシラカラスバトによる殺鼠剤喫食への対応（粒剤への切り替え）

### ○喫食回避策の検討（1/11～1/26）

- ・BS外に逸出した殺鼠剤を喫食→逸出防止の有効性が確認されている粒剤を使用
- ・BS内にハトが首を突っ込めないように喫食回避策を検討

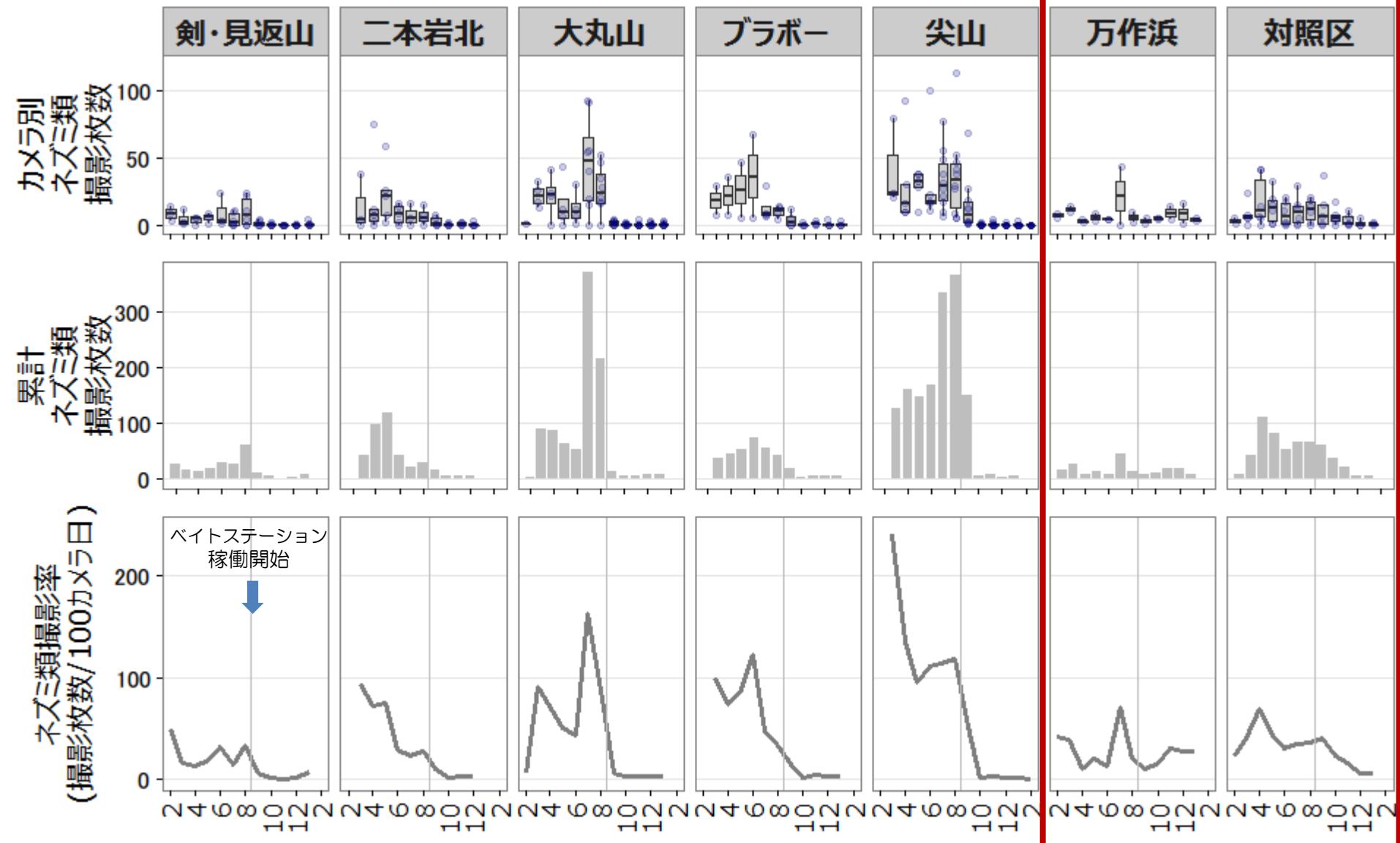


ハトの喫食回避、ネズミの喫食効果とともに有効性が確認された粒剤+入口へのUピン設置によって、再開（一部、Uピンを設置できない岩地は、BS内への仕切りの設置による喫食回避策で対応）



### 3. 対策効果：センサー撮影結果

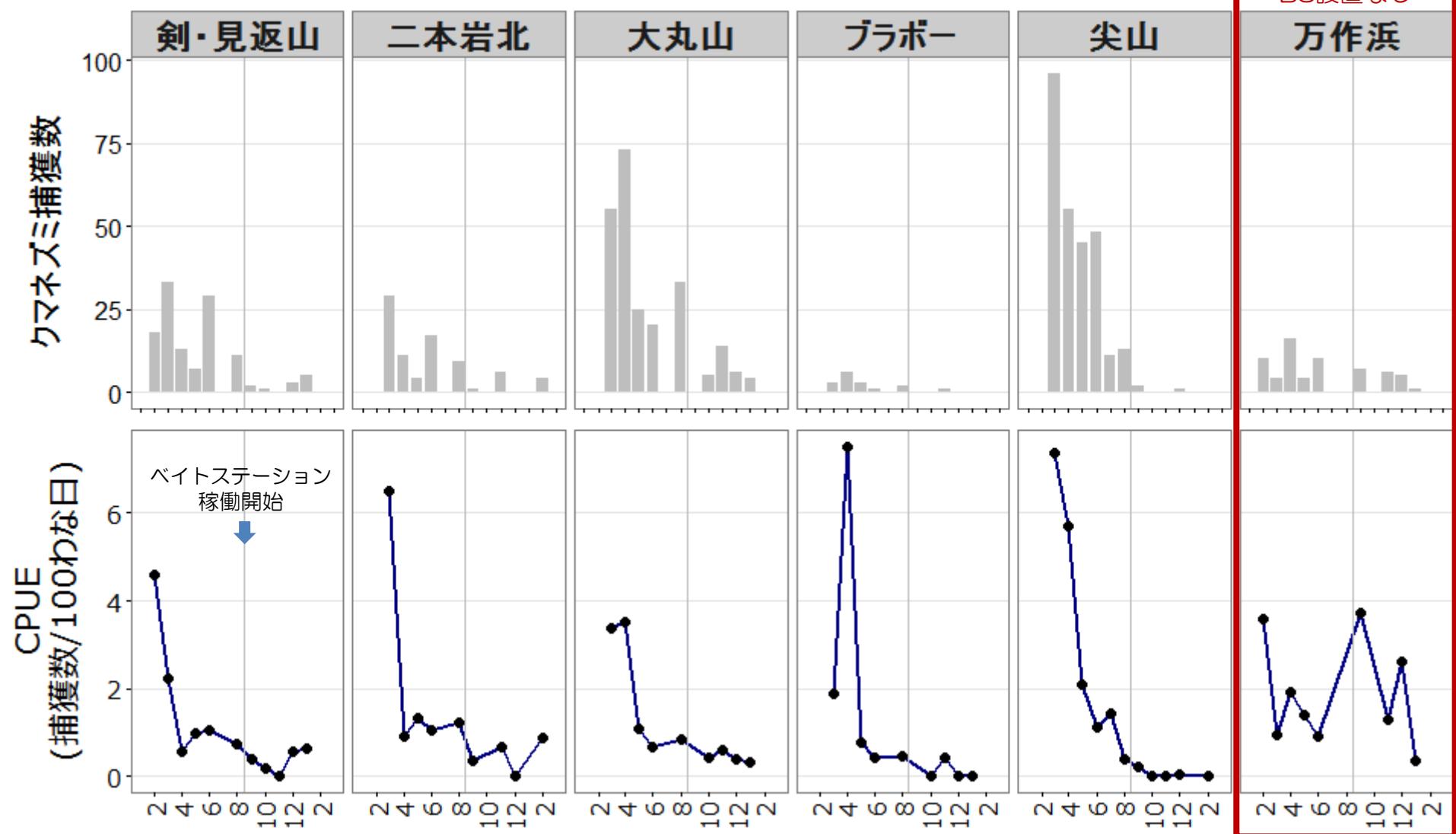
BS設置なし



- ネズミ類撮影枚数は連続10分以内に撮影されたものを1枚として集計

### 3. 対策効果：ネズミの捕獲状況

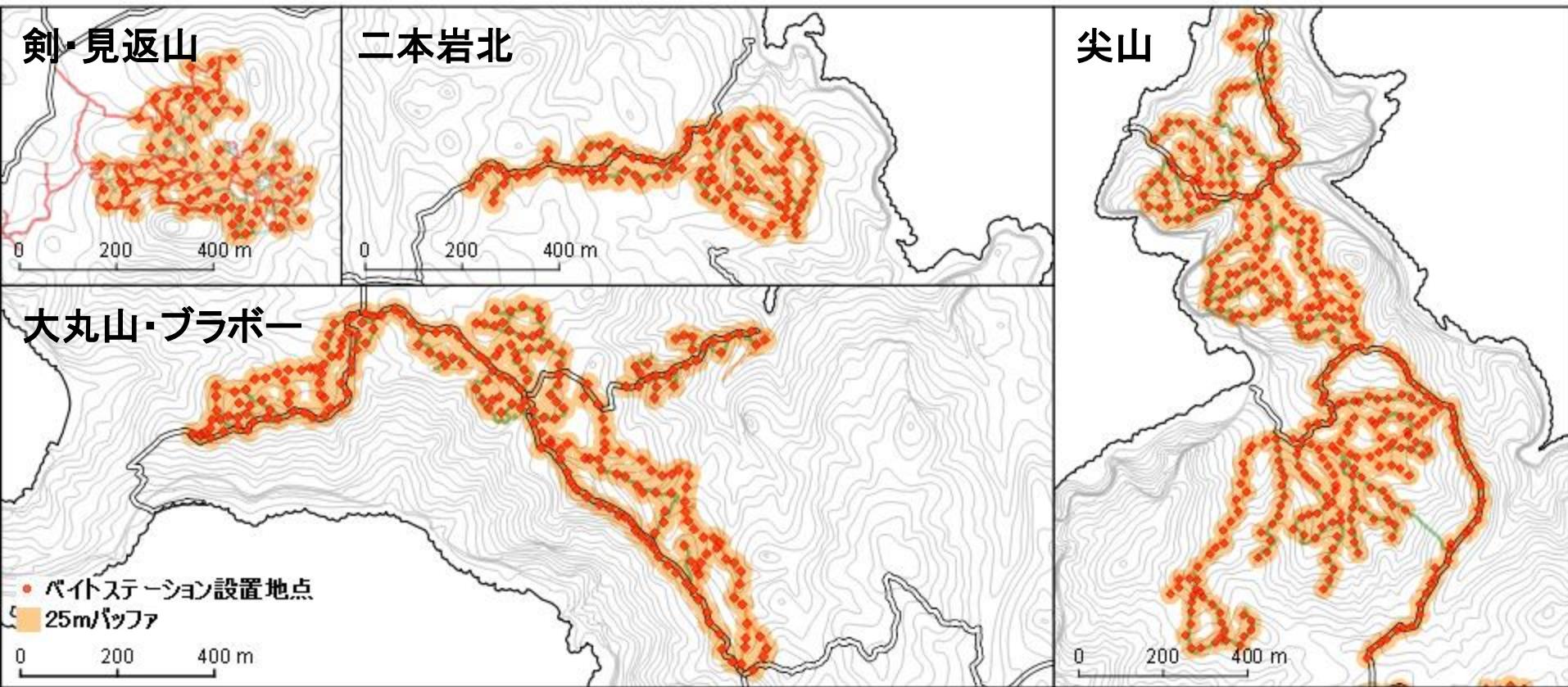
BS設置なし



- わなが有効な状態で設置されていた期間に基づきCPUEを算出（巡回時に空打ちや非標的種の捕獲があったわなは含めない）
- 剣・見返山、二本岩北では7月、大丸山、ブラボーでは7・9月、万作浜では7・8月の捕獲を実施していない

2月5日閉扉分までを集計

#### 4. ベイトステーションによる対策実施状況（～2月中旬まで）



#### 設置条件

- ・設置に先立ち、カゴわなによる捕獲作業時期から作業動線を増設：  
尖山（緊急対策チームにより実施）、二本岩北、大丸山・ブラボー
- ・各作業動線で 25m間隔にベイトステーション（BS）を設置、平均8個/ha
- ・殺鼠剤（ダイファシノン製剤スローパック）のBSへの充填量は 300g/個、  
使用量は 3kg以内/ha • □

## 4. ベイトステーションによる対策実施状況

### 点検手順

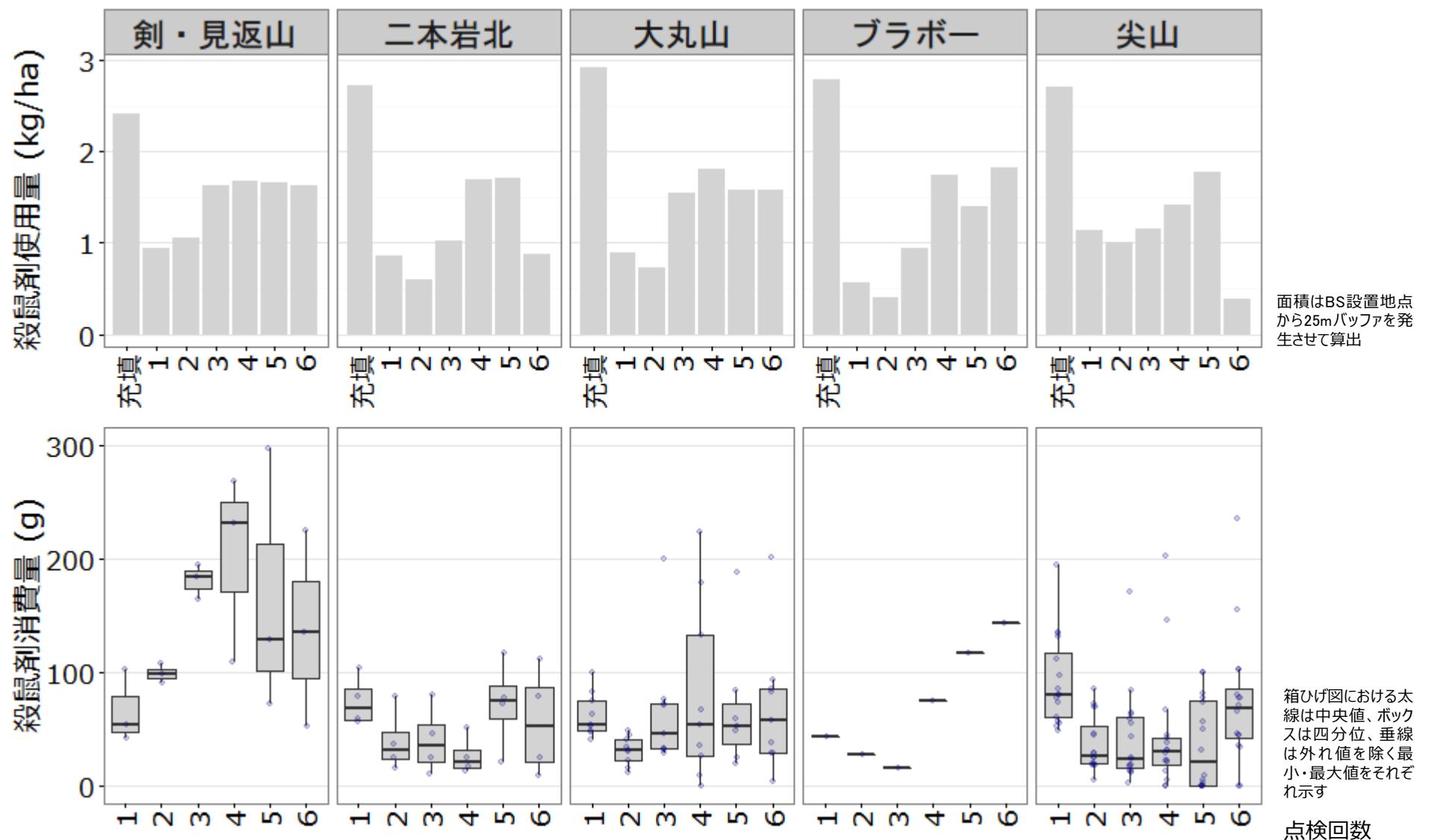
- ・約10日間間隔で点検及び殺鼠剤の補充を実施（実績値）

### 点検項目

- ・消失量=100-補充量 (%)
- ・逸出量：BS周辺に散逸した 粒剤が残有しているパックを記録
- ・無効量：BS内の開いているパック、液状化/カビた無効パックを記録
- ・非標的生物の侵入：点検時にBS内で確認された非標的生物の種・数
- ・設置箇所から移動・ロストしたBSの記録
- ・非標的生物の死亡・衰弱個体(保護・回収含む)・作業動線上のネズミ死体数(回収含む)

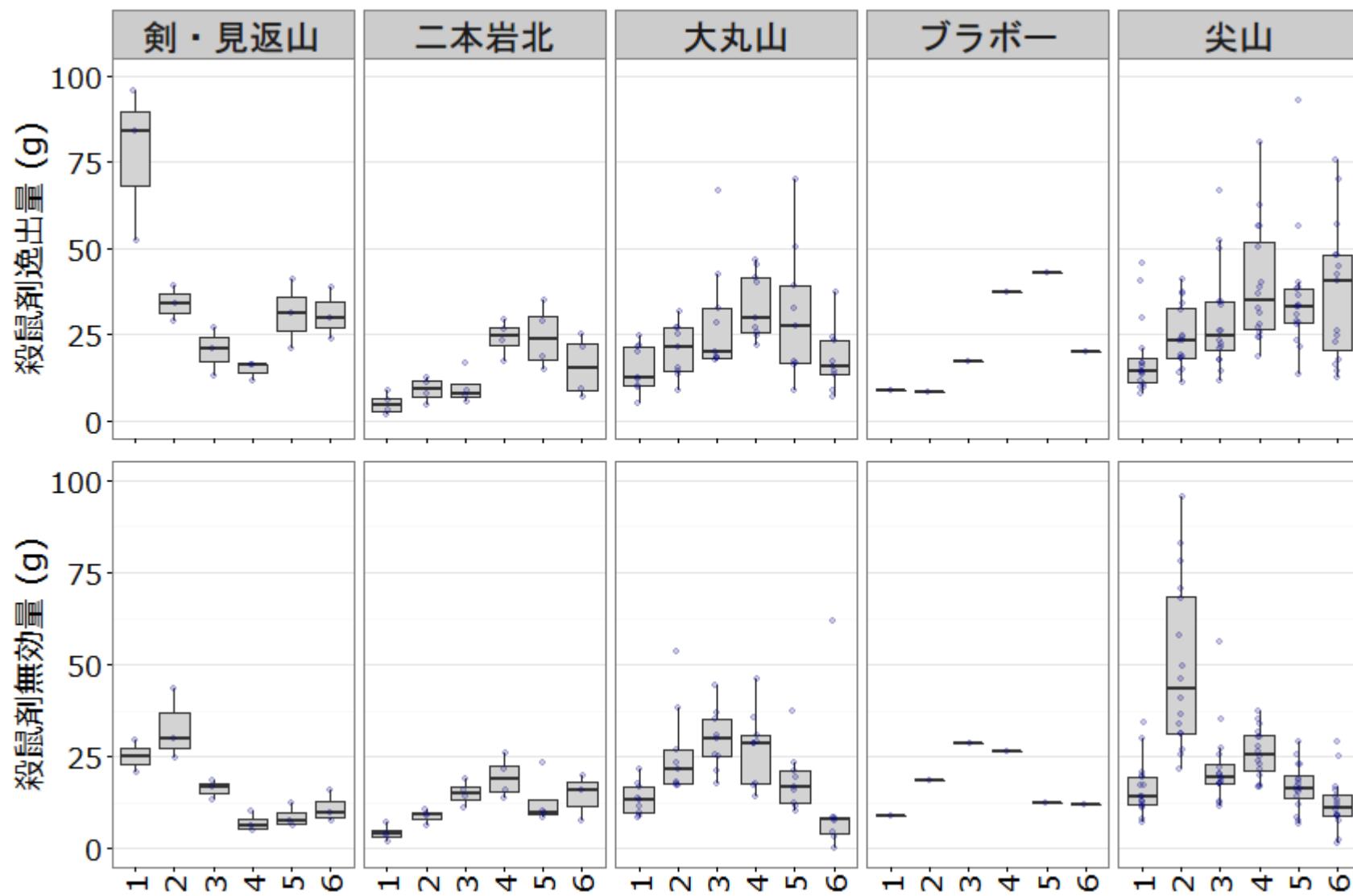
エリア	剣・見返山	二本岩北	大丸山	ブラボ一	尖山	計
BS設置個数	71	105	219	26	382	803
充填作業日	8月26日	8月28,29日	8月26,27日	8月27日	8月28,29,31日	
補充(1回目)	9月1日	9月5日	9月2,4日	9月4日	9月7,8,11日	
補充(2回目)	9月11日	9月15日	9月12,14日	9月12日	9月16,21,22日	
補充(3回目)	9月30日	10月10日	10月3,9日	10月3日	10月12-14日	
補充(4回目)	11月2日	11月11日	11月5-7日	11月6日	11月7,9,11日	
補充(5回目)	11月21日	12月5日	11月24,25,30日	11月30日	12月1,7,8,14日	
補充(6回目)	12月12日	12月16,21日	12月21,22,23日	12月26日	12月23日-1月6日	

#### 4. ベイトステーションによる対策実施状況<殺鼠剤使用量・消費量>



消費量 = (作業ルート毎の合計殺鼠剤消失量 - 合計逸出量) / BS個数  
 \*逸出量が消費量を上回る場合は0(g)とした

#### 4. ベイトステーションによる対策実施状況<殺鼠剤の逸出・無効化>



箱ひげ図における太線は中央値、ボックスは四分位、垂線は外れ値を除く最小・最大値をそれぞれ示す

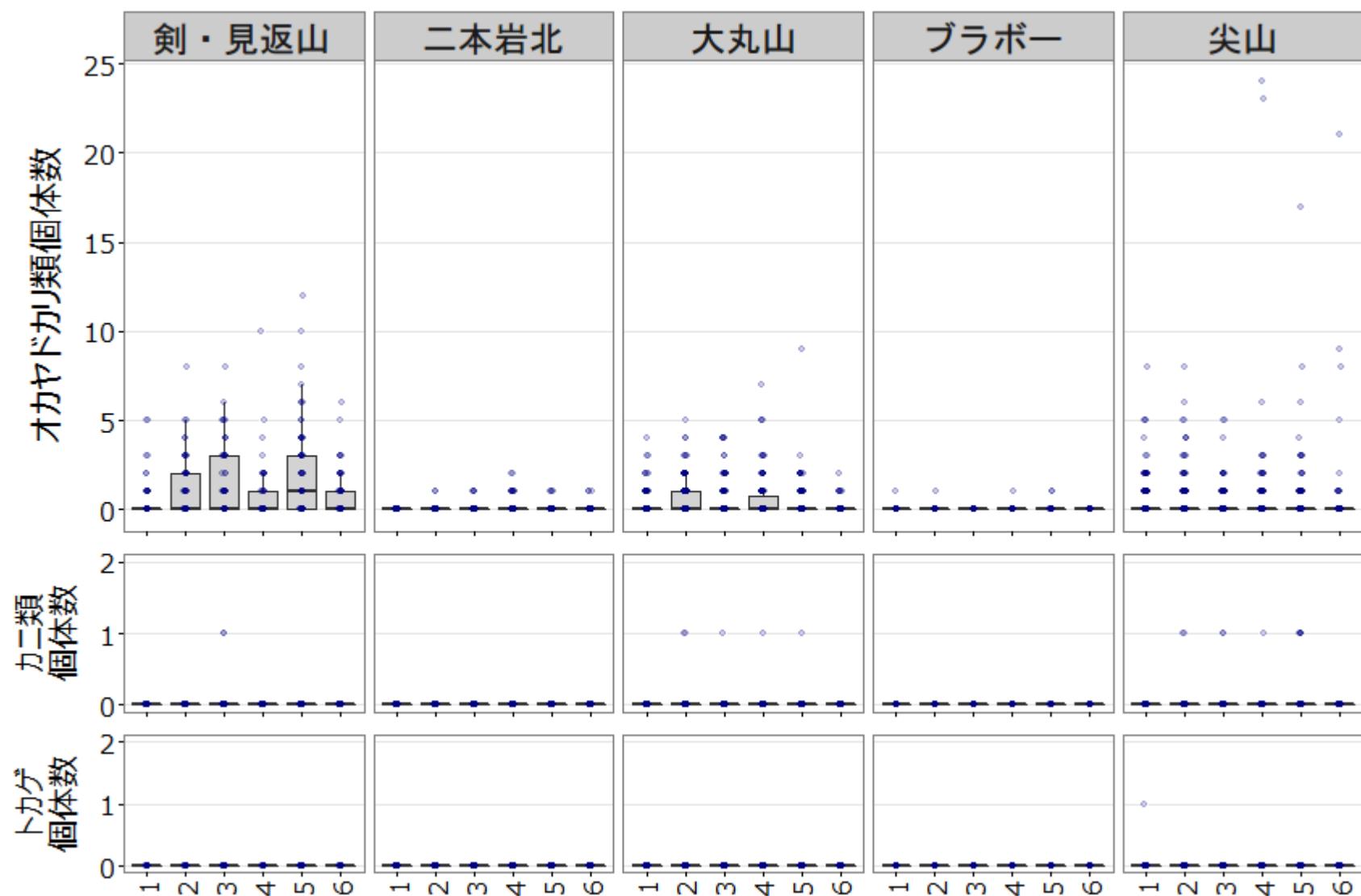
点検回数

逸出量＝作業ルート毎の合計逸出量/BS個数

無効量＝開いているパック、液状化したパック/カビたパックを記録

\*剣・見返山の1回目巡回時は空のスローパックも集計したため、過大評価となっている

#### 4. ベイトステーションによる対策実施状況<非標的種>



箱ひげ図における太線は中央値、ボックスは四分位、垂線は外れ値を除く最小・最大値をそれぞれ示す

点検回数

- ・ベイトステーション内部でオカヤドカリ類、カニ類、オガサワラトカゲを確認
- ・剣・見返山エリア 3回目点検時にオカヤドカリ1個体の死亡を確認、  
その他の非標的種はすべて生存

## 4. ベイトステーションによる対策実施状況（2月中旬～）

### 点検手順

- ・粒剤（ダイファシノン製剤）の充填量は 200g/個
- ・残量、有効量を計量(g)
- ・作業ルート毎に逸出量を計量(g)
- ・カビた粒剤、形状が保たれていない物は無効として交換
- ・約10日間間隔で点検・殺鼠剤補充(実績値)



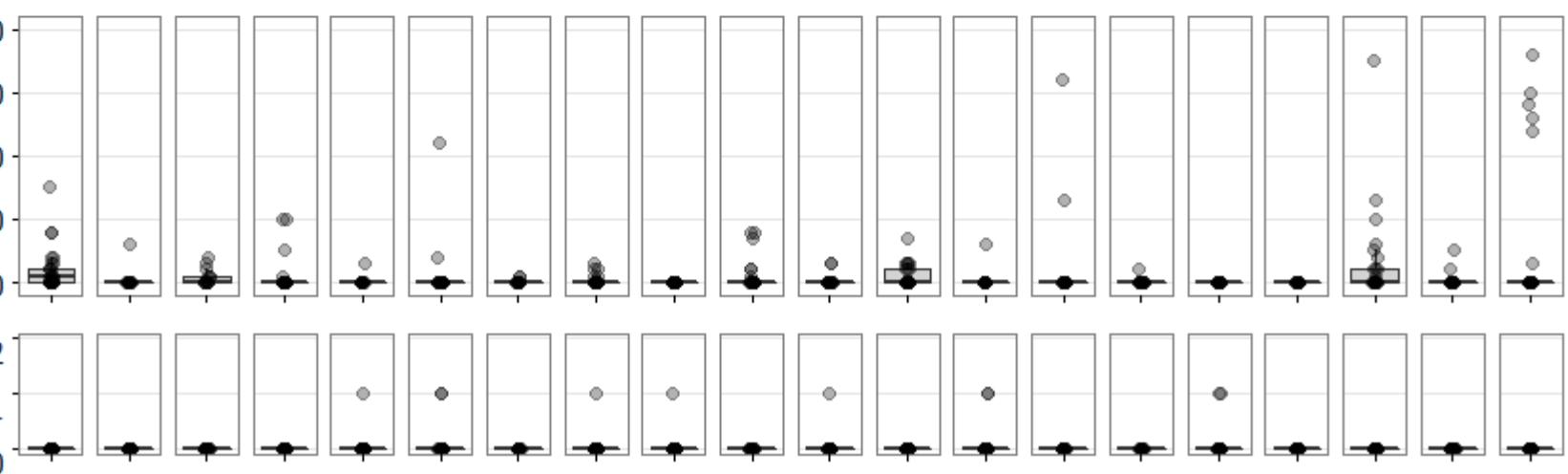
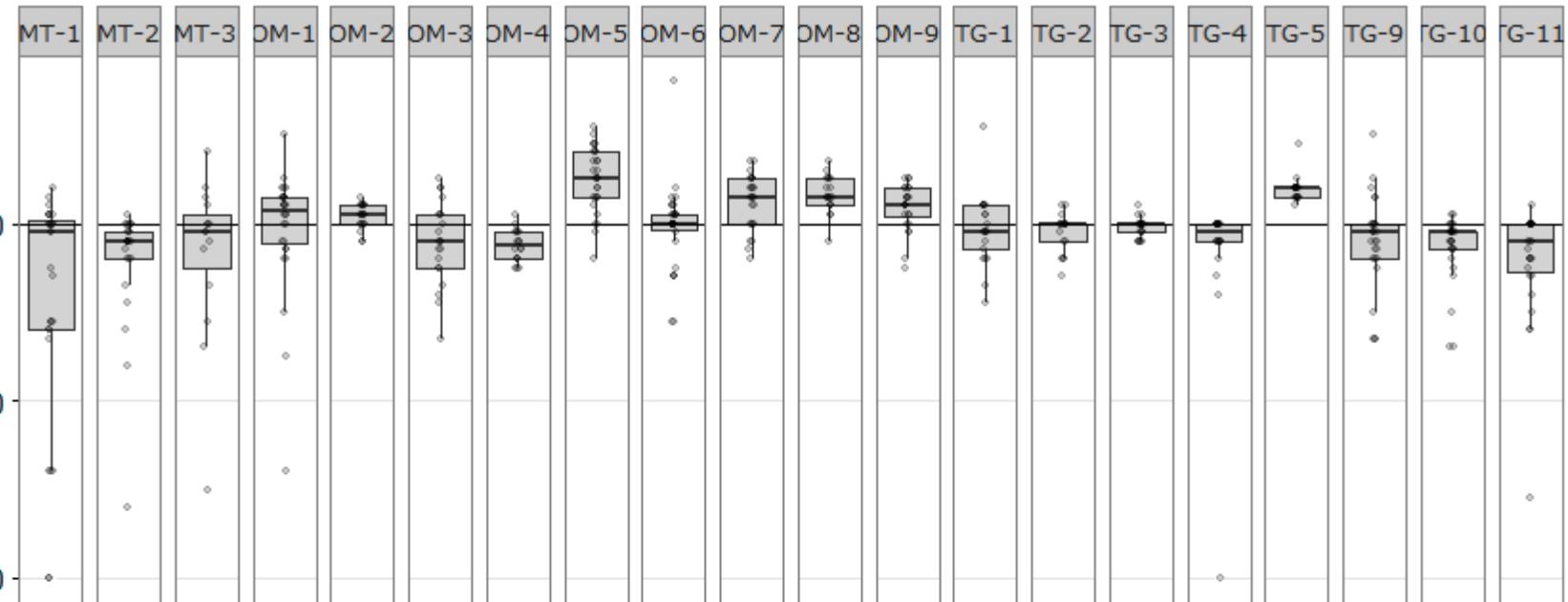
### ベイトステーション設置状況

エリア	剣・見返山	二本岩北	大丸山	ブラボー	尖山	計
BS設置個数	71	105	219	26	382	803

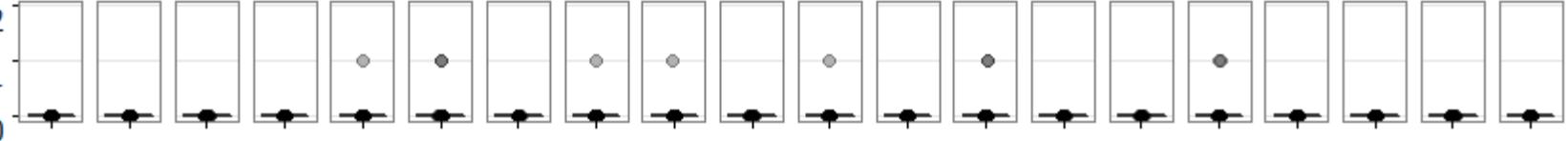
### 非標的種による喫食防止対策

Uピン	68	103	209	26	347	753
仕切り	3	2	10		18	33
樹上設置					17	17

#### 4. ベイトステーションによる対策実施状況<殺鼠剤の残量・無効化>



才カヤドカリ  
個体数

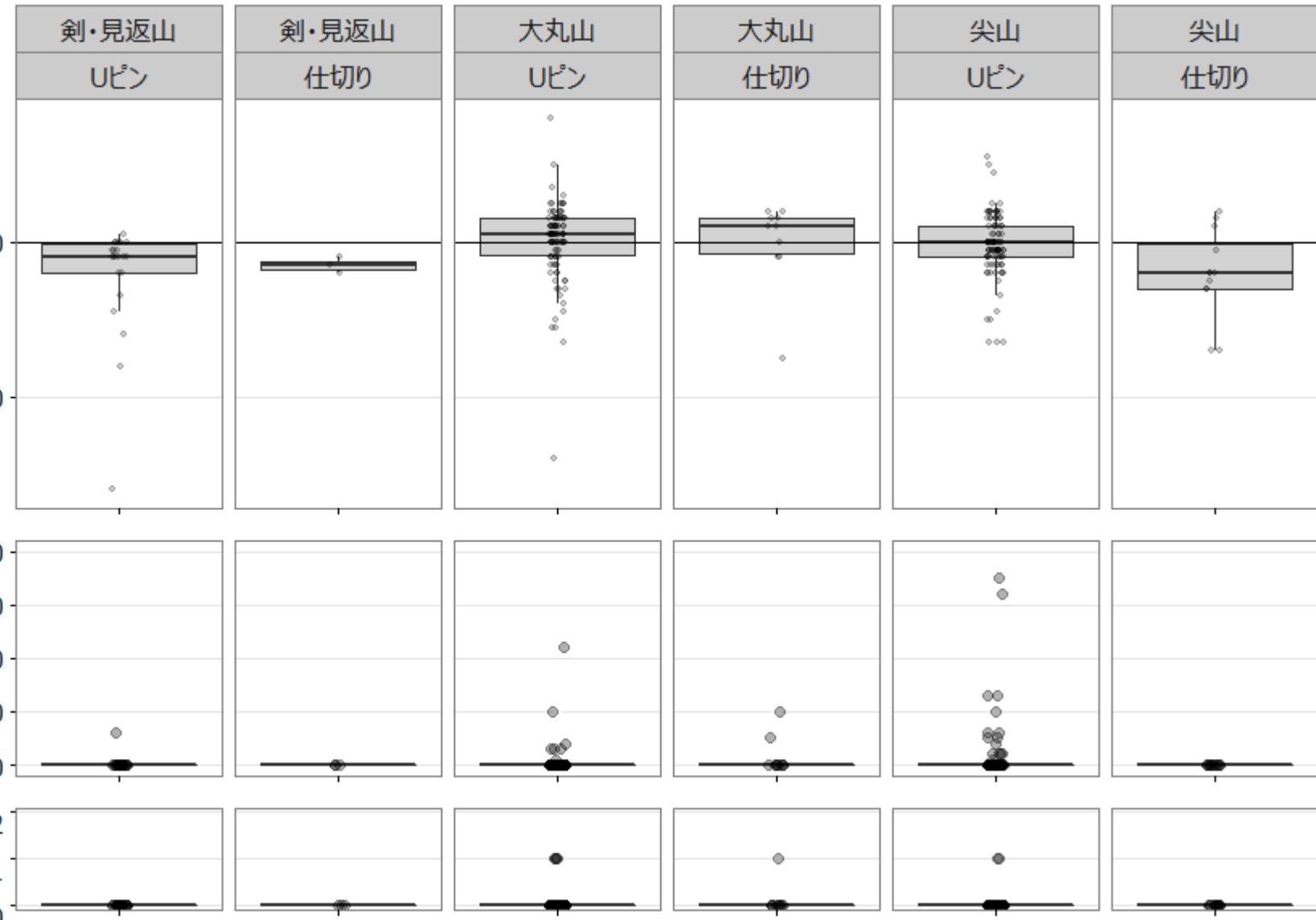


充填量=200g

無効量 = 残量(g) - 有効量(g)

2月9～18日充填、  
2月20～29日点検分

#### 4. ベイトステーションによる対策実施状況<殺鼠剤の逸出・無効化>



MT-2, OM-1, 2, 3, 6, 8, TG-1, 2, 5, 9, 10の結果を集計

2月9～18日充填、  
2月20～29日点検分

## 5. オカヤドカリの喫食回避策の検討

### ◆試験目的

- ・殺鼠剤を喫食したオカヤドカリを通じたオガサワラノスリへの二次毒性影響について、明らかになっていない。
- ・また、オカヤドカリの喫食によるネズミへの喫食効果の阻害も想定される。  
→これらを解消するために、オカヤドカリの喫食回避策の検討を継続している。



### ◆試験経過

- ・BSの樹上設置
- ・ラミネート等の樹幹巻き付け  いずれも失敗  
による登攀阻害



(前回委員会以降の新たな試験)

- ・BSの底上げによる試験を実施



### ◆試験経過

- ・オカヤドカリの喫食阻害、ネズミの喫食効果ともに有効性を確認。

→オカヤドカリの活性期に合わせて、高密度地帯での導入を予定